

クロージング公演

松江市 全席自由

島根発、地域伝統芸能を活かした
創作舞台作品

【各日】一般：2,000円 高校生以下：1,000円 [チケット取扱所] 島根県民会館 TEL:0852-22-5556
※未就学児膝上無料(席が必要な場合有料) [チケット発売日] 10/22(木)

11.22 創作舞台 『芸能開闢 古事記』

わたしたちが生きている世界はどのようにできたのか。そして、私たちはどのように生まれたのか。それを古代の人たちは神話という形で残しました。『古事記』や『日本書紀』、あるいは『風土記』などのように文字としても残しましたし、神話のように身体表現としても残しました。今回の舞台は世界が生まれる瞬間「開闢(かいびやく)」から八岐大蛇退治までを、深野神楽保存会(雲南市)と島根の子どもたち、そして能や人形劇などとの共演で行います。



開場 14:45 開演 15:30
定員 定員200名(予定)
会場 島根県民会館中ホール
出演 安田登(能楽師)、いとうせいこう(俳優、ラップ)、奥津健太郎(能楽狂言方)、実験道場(ダンス)、深野神楽保存会 ほか
楽曲制作 ヲノサトル(音楽家)
美術監修 山下昇平(造形作家)

11.23 月・祝

開場 13:00 開演 14:00
定員 定員500名(予定)
会場 島根県民会館大ホール

創作音楽劇『琴の鳴る浜』

出演 松浦 麗(メゾソプラノ)、地元演奏家、琴ヶ浜盆踊り保存会、琴の鳴る浜合唱団

※2019年3月公演「琴の鳴る浜」より「わが振る袖を」、「願成就(やっちょよこ)」ほか

今は昔、平家に代わって、源氏が天下を取ろうとしていた頃のこと。大しけの翌朝、馬路の浦にひとりの娘が流れ着いた。琴を奏でること、歌を歌うことが好きな娘は「お琴さん」と呼ばれ、海辺の村の暮らしに馴染んでいく。子どもたちに慕われ、漁師の善作と一緒に、このままずっと暮らせたならと願うようになるのだが、平和な村を、平家の生き残りを捕らえよ、という追討令が襲う。村を守るため、平家の娘と疑いをかけられたお琴を差し出すべきか、それともお琴を守るべきか。村人たちの心は揺れ動く。お琴はなぜ馬路の浦へ流れ着いたのか?そして村人たちが下した決断とは?語り継がれてきた琴姫伝説をもとに、馬路の浦が「琴ヶ浜」と呼ばれるようになった由来を伝える物語です。



石見神楽×ダンス『SHOKI 一鍾馗一』

出演 益田市石見神楽神和会 青年部、藤田善宏(振付家・ダンサー)、酒井大輝、関口奈々、渡邊未有、稲葉由佳利

9月のグラントワ・オープニング公演で初演された石見神楽×ダンス『SHOKI 一鍾馗一』の再演です。島根県西部で継承される石見神楽の豊かな表現力と、振付家・コンテンポラリーダンサーとして第一線で活躍する藤田善宏氏をはじめとするダンサー陣によるコラボレーション舞台。ダンサーと社中員の身体表現が融合する伝統芸能とダンスの《今》を感じとれる公演です。第一弾『岩戸』(2017年)、第二弾『KUROZUKA』『IWATO』(2019年)に続く第三弾として疫病退散・疫病鎮護がベースとなった物語『SHOKI 一鍾馗一』。様々な願いを込めて上演します。ご期待ください。



グランドフィナーレ 今福座 和太鼓演奏

出演 今福座

今福優・末長愛・堂本英里の3名によるユニット。今福優主宰、2003年から、ともに音を紡ぎ続けてきたからこそ生まれる息の合った演奏は、このメンバーでしかないとと言っても過言ではない。太鼓・神楽・唄・篠笛・踊りなど3名でもさまざまな表現で舞台を彩る。それぞれが、指導・演奏などをおこなって独自の世界を広げつつ、3名ならではの小空間での演奏、学校公演など、太鼓打ち「今福優」が最も活躍する舞台を創りあげていくことを目標とする。通常のホールだけでなく、神社・寺・小ホール・公民館などでの演奏も得意とする。



【主催】文化庁、公益社団法人日本芸術実演家団体協議会、島根県、公益財団法人しまね文化振興財団(島根県民会館/いわみ芸術劇場)
【制作協力】伝統芸能(株)ナカツボ・アーツ、CAT-A-TAC [後援]芸術文化とふれあう協議会
【共催】公益財団法人 大田市体育・公園・文化事業団、株式会社キラキラ雲南、公益財団法人 隠岐の島町教育文化振興財団、TSKさんいん中央テレビ
【協力】島根県公立文化施設協議会、益田市石見神楽神和会
【助成】一般財団法人 地域創造、文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)、独立行政法人日本芸術文化振興会



【お問い合わせ】
島根県民会館 文化事業課
TEL 0852-22-5508

第2・第4月曜日休(祝日・振替休日の場合は翌平日)/臨時休館日あり
※車椅子ご観劇エリアをご希望の方は、各会場へお問い合わせください。
※出演者、演目は変更になる場合がございます。
※写真は実際のものとは異なる場合がございます。
※新型コロナウイルス感染症の状況により、公演を急遽変更する場合があります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのご案内

●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、来場者の氏名連絡先をお伺いします。
●定員は各会場の1/2以下を想定しておりますのでご了承ください。●発熱、咳等の症状のある方、体調不良の方、過去2週間以内に感染が拡大している国や地域への訪問歴がある方は来館をお控えください。●マスクの着用、手指消毒、入場前の検温などをお願いしております。詳しくは、公演チラシや公式HPをご確認ください。



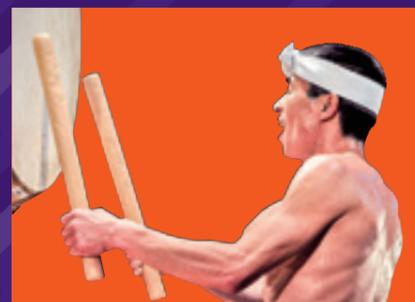
文化庁委託事業
「令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業」



しまね 伝統芸能

受け継がれる
伝統芸能の“今”

DENTOU
GEINOU
SAI 伝
Shimane



【オープニング公演】9.12(土) / 9.13(日)
(島根県芸術文化センター「グラントワ」)

【交流公演】10.18(日) / 10.25(日) / 11.7(土)
(サンレディー大田) (古代鉄歌謡館) (隠岐島文化会館)

【クロージング公演】11.22(日) / 11.23(月・祝)
(島根県民会館)

しまね伝統芸能祭HPでは映像配信も行っています!

<https://www.shimafes.com/>

しまね伝統芸能祭 検索



島根県に伝わる伝統芸能は、豊かな自然と風土に生まれ、脈々と受け継がれてきた誇るべき文化であり、地域資源です。

先人への敬意や自然の畏怖を持ち、舞い踊る、これらの地域に支えられ伝えられた伝統芸能は大変貴重であると同時に、伝承の重みを次世代へ伝えていくことが非常に重要なことと考えます。

また、島根の伝統芸能に息づく豊かな表現力は、日本古来の芸能の魅力と、今まさに芸能を継承する人々の姿を同時に感じ取ることができる貴重なものです。

そこでこの度の「しまね伝統芸能祭」では、県内各地での伝統芸能公演、伝統と現代が融合した創作舞台公演、特設サイト上での映像による芸能紹介等を行います。社会に大きな変化がもたらされた本年ですが、地域の人々が守りぬいてきた伝統芸能の大切さと魅力を今こそご体感ください。



オープニング公演 益田市 全席指定

【各日】前売一般：1,000円 グラントワ会員・大学生以下：800円
※当日 各200円増 ※前売券完売の場合、当日券はございません。
※未就学児膝上無料(席が必要な場合有料)
無料託児サービスあり(9/5までに要申し込み)

9.12 土 石見神楽 × ダンス 『SHOKI—鍾馗—』

開場 13:30 開演 14:00 定員 定員100名(予定)
会場 島根県芸術文化センター「グラントワ」小ホール
出演 益田市石見神楽神和会 青年部、藤田善宏(振付家・ダンサー)、酒井大輝、関口奈々、渡邊未有、稲葉由佳利

大元神楽 市山神友会(江津市)

市山神友会は、国の重要無形民俗文化財に指定された大元神楽を伝承する神楽団です。時代を経て神職の活動と共に築き上げてきた先輩たちに想いを馳せ、その活動を良い形で後世に伝承していくことが私たちの責任であり、誇りだと思っています。昔ながらのゆったりとしたテンポの「六調子神楽」を大切に「市山の舞をかえまい」という声を天の声とし、大元神楽を地域の宝として今後も大切に伝承していきます。

文化財指定 | 国指定重要無形民俗文化財、日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」

出雲大社教神代神楽 西日登社中(雲南市)

当社中のある西日登地区は、出雲神話の代表であるヤマノオロチ神話の発祥の地です。スサノノミコトがヤマノオロチを退治された後、この地の住人である柳稲田姫と結婚されました。まさにオロチ退治神話の発祥の地に受け継がれてきた神楽と言えます。文久元年(1861年)に地区の農民有志が神官より神楽舞を習得し「西神楽」として発足しました。昭和28年には出雲大社「昭和の大遷宮」にて神楽奉納を行い「出雲大社教神代神楽師」の称号を賜り、以降、毎年出雲大社にて奉納神楽を行っています。また、靖国神社、金比羅宮などでの神楽奉納を行い、近年では地元西日登小学校に神楽クラブも発足、後継者育成にも力を入れています。

文化財指定 | 出雲大社教神代神楽師、雲南市指定無形民俗文化財

石見神楽 丸茂神楽社中(益田市)

丸茂神楽社中は、明治25年、初代座長・大野亀太郎が美都町丸茂地区に移住したのを機に新たに神楽社中を起こしたことが始まりと伝わっております。現在は美都町を中心として毎年の例大祭での神楽奉納、各地での公演や夜神楽への出演等を行うことで、神楽の継承・保存、魅力を伝える活動に力を入れています。日頃の活動の様子を丸茂神楽社中facebookで紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

文化財指定 | 日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～」、益田市指定無形民俗文化財

島根発、地域伝統芸能を活かした創作舞台作品&伝統芸能公演

【チケット取扱所】 島根県芸術文化センター「グラントワ」総合案内カウンター TEL:0856-31-1871
【チケット発売日】 8/22(土)

9.13 日 伝統芸能公演

開場 13:30 開演 14:00 定員 定員300名(予定)
会場 島根県芸術文化センター「グラントワ」大ホール
出演 大元神楽 市山神友会(江津市) 出雲大社教神代神楽 西日登社中(雲南市) 石見神楽 丸茂神楽社中(益田市) ゲスト阿波木偶箱まわし保存会(徳島県徳島市)

※LIVE配信の詳細は、しまね伝統芸能祭HPをご覧ください。

阿波木偶箱まわし保存会 (徳島県徳島市)

四国を代表する門付芸の阿波木偶「三番妻まわし」。千歳・翁・三番妻の木偶で「式三番妻」を舞い、家内安全・無病息災や五穀豊穡を祈り、えびす木偶が商売繁昌や豊漁を祈願します。「三番妻まわし」は、徳島県独特の無形民俗文化財で、現在は阿波木偶箱まわし保存会が伝承し、正月の門付を継承しています。毎年、元旦から旧正月のひと月半をかけて、約1000軒を越す民家に福を運んでいます。この取組みで2017年にサントリー地域文化賞を受賞。2011年元旦に放映された「ゆくゆく年」(NHK総合)や、2015年「新日本風土記・吉野川」(NHKBS)で、門付の様子为全国で紹介されました。

文化財指定 | 徳島県指定無形民俗文化財

11.7 土 隠岐の島町

【チケット発売日】 10/7(水)
【チケット取扱所】 隠岐島文化会館 TEL:08512-2-0237 島根県民会館チケットコーナー TEL:0852-22-5556

文化財指定 | 島根県指定無形民俗文化財

交流公演 全席自由

10.18 日 大田市

【チケット発売日】 9/18(金)

開場 13:30 開演 14:00 定員 定員245名(予定) 会場 サンレディー大田

出演 【県外団体】淀江さんご節保存会(鳥取県) 【地元団体】大田市小唄保存会(大田市)

【チケット取扱所】 サンレディー大田 TEL:0854-82-6700 島根県民会館チケットコーナー TEL:0852-22-5556

10.25 日 雲南市

【チケット発売日】 9/25(金)

開場 12:30 開演 13:00 定員 定員125名(予定) 会場 古代鉄歌謡館

出演 【県外団体】二子流東京鬼剣舞(岩手県) 【県内団体】益田糸操り人形保持者会(益田市) 【地元団体】海潮山王寺神楽社中(雲南市)、佐世神楽社中(雲南市)

【チケット取扱所】 古代鉄歌謡館 TEL:0854-43-6568 加茂文化ホール ラメール TEL:0854-49-8500 チェリヴァホール TEL:0854-42-1155 島根県民会館チケットコーナー TEL:0852-22-5556

海潮山王寺神楽社中 (雲南市)

神楽の演目は「古事記」、「日本書紀」の神話をモチーフにしたものが多いのですが、日本神話の3分の2は出雲神話で占められています。その出雲神話の舞台となった地におよそ400年の伝統を持つ「海潮山王寺神楽」があります。風(舞)流の美しさや奥深さが高く評価され、昭和36年に県の無形民俗文化財に指定されました。明治34年出雲大社宮司に認められ、出雲大社教神代神楽本部となって以来百十余年来毎年出雲大社大例祭(5月14日～16日)には三日三夜神前にて奉納しています。

文化財指定 | 島根県指定無形民俗文化財

11.7 土 隠岐の島町

【チケット発売日】 10/7(水)
【チケット取扱所】 隠岐島文化会館 TEL:08512-2-0237 島根県民会館チケットコーナー TEL:0852-22-5556

文化財指定 | 島根県指定無形民俗文化財

隠岐民謡「民謡あこな会」 石見神代神楽 上府社中(浜田市)

【開場】 17:00 【開演】 17:30 【定員】 定員300名(予定) 【会場】 隠岐島文化会館

出演 【県外団体】奄美・沖縄の島唄 南西合奏団「群星」(鹿児島県/沖縄県) 【県内団体】石見神代神楽 上府社中(浜田市) 【地元団体】民謡あこな会(隠岐の島町)

【チケット取扱所】 隠岐島文化会館 TEL:08512-2-0237 島根県民会館チケットコーナー TEL:0852-22-5556

島根県内3カ所、地域伝統芸能と全国の伝統芸能の交流

大田市小唄保存会 (大田市)

昭和の初期大田市民の間で唄い、踊られていた「大田小唄」も最近では殆ど耳にする事が無くなっていました。今まで4番まで唄われていた「大田小唄」に一昨年5番目の歌詞が浮上し、新しく1番から5番までの唄にも踊りを振付しました。これから多くの方に大田の小唄が唄われ愛される事を願い、活動を続けていきます。今回は大田小唄の他、それぞれ歴史のある三瓶小唄、温泉津小唄も披露します。

文化財指定 | 国指定重要無形民俗文化財

淀江さんご節保存会 (米子市)

淀江は古くから天然の港に恵まれ、幕末から明治にかけて、北前船の発達により九州や北陸方面から航行して来た船乗り衆が歌う民謡に、淀江独特の節回しを加えて、リズム感あふれる「淀江さんご節」が誕生しました。さんご節は、七七七五調の歌詞で、三味線、太鼓、鳴り物の調べに合わせて歌われ、今もなおその古い調べを残しています。歌い出しの高い「淀江さんご節」は、港町特有の健康的な明るさがあり、そのリズムは躍動感に満ちあふれ、この唄が歌い継がれてきた生命力を感じさせます。

文化財指定 | 国指定重要無形民俗文化財

佐世神楽社中(雲南市)

古老によると相当昔から舞われていたようですが、記録になく記録としては昭和5年に佐世小学校の竣工式に付近の若者たちにより舞われたとのことが残っています。古くより神主神楽の流れを汲んで、優雅な舞いであるとされていました。昭和63年に旧大東町の無形文化財と認定され、同時に出雲大社教神楽としても登録されました。現在30代から70代まで12名が技術の習得を受け継ぎつつあります。また、平成30年からは女性6名も参加し舞の練習に励んでいます。

文化財指定 | 島根県指定無形民俗文化財

益田糸操り人形保持者会 (益田市)

益田の糸操り人形は、1887(明治20)年頃東京より伝えられました。人形操者、太夫、三味線、後見の4役で上演されます。地は義太夫節。人形の操法は、遣い手が高さ1.5メートルの歩み板の上から、丈約70センチの人形の各所に13～18本ほどの糸が繋がった、四つ目と呼ばれる手板を使って人形に微妙に動きを与るもので、益田糸操り人形のように古い形態をとどめまま上演されるのは、わが国で現在上演されている糸操り人形の中で唯一無二のものとして扱われています。

文化財指定 | 島根県指定無形民俗文化財